



営農タイムリー！



発生予察情報について(9月-1)

2023年9月1日発行

京都府病害虫防除所 9月の予察情報より。

13. ホウレンソウ シロオビノメイガ

予報内容 発生量 : **平年比 やや多い**

シロオビノメイガ

テンサイ、ホウレンソウの害虫で、食害がひどい場合は葉脈のみを残して丸坊主になる。

形態 : 成虫は翅開張20mm位で、帯状の白い斑紋があり「サカハチノメイガ」と呼ばれる。

卵は葉裏の葉脈にそって点々と産みつけられる。幼虫は全体に淡緑色で成長すると20mm前後になる。

生態と被害 : 北海道では3回、暖地では5~7回発生する。

蛹で地中で越冬し、6月から11月頃まで発生する。幼虫は葉裏から葉肉を食害し、やがて食害部は穴があく。葉を糸で綴って巻き内部に生息している。幼虫は活発で刺激をあたえると逃げだす。フダンソウ、テンサイ、ケイトウなどに発生する。



老熟幼虫



幼虫による食害



成虫



幼虫は葉裏に寄生し、表皮だけを薄く残して葉肉を食害する。

ほうれんそう シロオビノメイガ に登録のある農薬

2023.8

成分系	IRAC コード	薬剤名	病害虫草名	希釈倍数、 使用量	使用時期 / 使用方法	本剤の 使用回数	成分別 総使用回数
スピノシン系 (殺虫剤)	5	スピノエース 顆粒水和剤	シロオビノメイガ	5000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
		ディアナ SC	シロオビノメイガ ハモグリバエ類	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
ネライストキシ ン類縁体 (殺虫剤)	14	パダン SG水溶剤	シロオビノメイガ	1500倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
ベンゾイル尿素 系 (殺虫剤)	15	カスケード 乳剤	アシグロハモグリバエ シロオビノメイガ ハスモンヨトウ ホウレンソウケナガコナダニ マメハモグリバエ	4000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内
セミカルバゾ ン系 (殺虫剤)	22B	アクセル フロアブル	シロオビノメイガ ハスモンヨトウ	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
ジアミド系 (殺虫剤)	28	プロバゾン フロアブル5	シロオビノメイガ	2000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
	28	ベリマーク SC	シロオビノメイガ ハスモンヨトウ	4000倍 0.2L/平方m	収穫7日前まで / 株元灌注	1回	1回

今後注意すべきその他の病害虫等

5. ハイマダラノメイガ[ダイコンシンクイムシ](アブラナ科)

生育初期に加害されると欠株等が生じ、大きな被害となるので注意する。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 8月下旬以降、10月下旬頃まで発生する。
- (2) 株の生長点部を食害するため、被害株は生育が停止したり、枯死するものが多い。
- (3) 苗床や定植直後によく観察し、発生を認めたら直ちに防除する。
- (4) は種直後から寒冷しゃ等で被覆を行い、産卵を防ぐ。

アブラナ科野菜の害虫 ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)

ダイコン、ハクサイなどの成長点を食害する。

形態 : 成虫は翅の開張16mm前後で、灰褐色をしている。卵は1粒ずつ発芽したばかりのものに好んで産む。幼虫は成長すると体長14mm位となり、淡黄色の縦線が5~6本見られる。

生態と被害 : 普通4~5回発生であるが、6回発生することもある。越冬は加害作物の根ぎわで細長いマユの中で4~5齢幼虫で行う。5月中旬頃から出現し、8月に最も多くなる。一般に高温、少雨の年に多発する。発芽直後の被害は欠株となり、本葉3~4枚頃の加害では生長が止まり、奇形株となる。

防除の

ポイント : ● 8~9月の高温、乾燥の時や、早まきのものに多発する。本葉1~2枚の頃から防除する。



